

メリット6 [OSリング併用]

メリット6 梁高さの63.13%以下の貫通孔径で使用可能

パイロンバリアーとOSリングの併用により、通常は梁高さの1/2以下の貫通孔径までのところ、63.13%以下の貫通孔径まで使用可能となります。最大63.13%の貫通孔径とパイロンバリアー（12mm）の組み合わせにより、さらなる設備配管の有効面積の大幅アップ、また梁高さの低減が可能です。

メリット6-1 スリーブ径の有効活用

梁高さH-600時のスリーブ径対比

在来工法

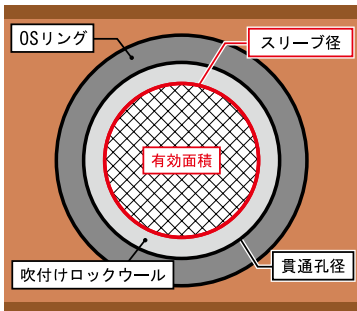


1/2 貫通孔径 300φ

在来工法（吹付けロックウール耐火被覆）

耐火時間	1時間耐火	2時間耐火	3時間耐火
被覆厚さ (mm)	25	45	60
スリーブ径 (φ)	250	210	180
有効面積 (cm ²)	491	346	254

在来工法 + OSリング

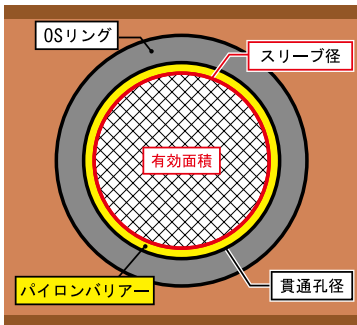


2/3 貫通孔径 375φ

在来工法（吹付けロックウール耐火被覆）

耐火時間	1時間耐火	2時間耐火	3時間耐火
被覆厚さ (mm)	25	45	60
スリーブ径 (φ)	325	285	255
有効面積 (cm ²)	829	638	510
有効面積比較	1	1	1

パイロンバリアー + OSリング



パイロンバリアー使用の場合

耐火時間	1時間耐火	2時間耐火	3時間耐火
被覆厚さ (mm)		12	
スリーブ径 (φ)		350	
有効面積 (cm ²)		962	
有効面積比較	1.16	1.51	1.88

在来工法+OSリング / パイロンバリアー+OSリング対比

設備配管の有効面積が大幅にアップします。

16%UP

1時間耐火

51%UP

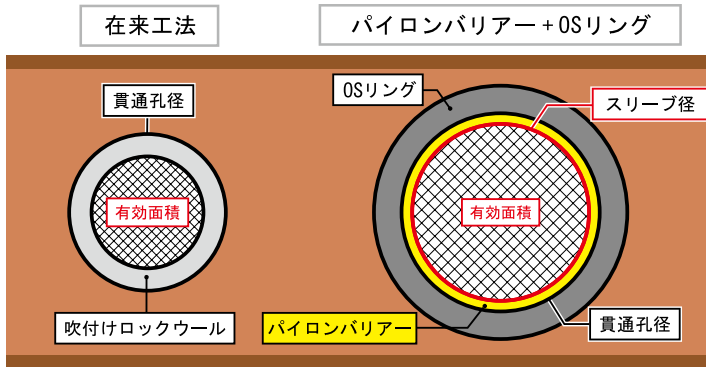
2時間耐火

88%UP

3時間耐火

POINT

在来工法／パイロンバリアー+OSリング対比



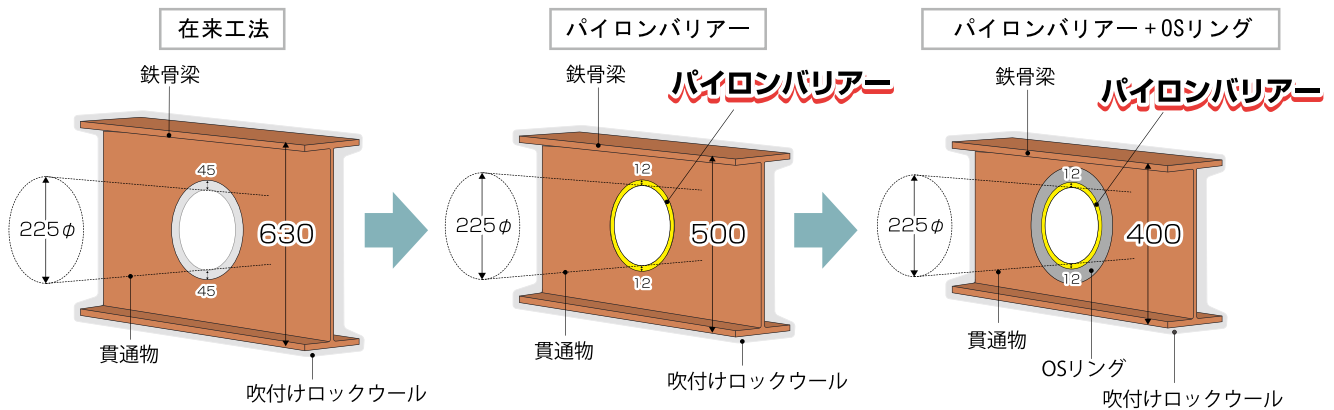
さらに
設備配管の有効面積がアップします。

96%UP 1時間耐火
178%UP 2時間耐火
278%UP 3時間耐火

メリット6-2 梁高さの低減が可能

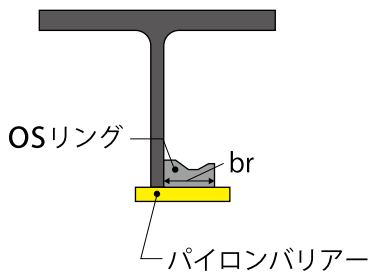
梁高さが貫通孔で決定している場合

<設備スリーブ225φとした場合 例) 2時間耐火>



**パイロンバリアー+OSリングを併用することで...
さらなる梁高さの低減が可能!!!**

パイロンバリアーとの納まり



〔パイロンバリアー選定方法〕

製品幅寸法=OSリング(br)+ウェブ厚以上



●本ページ (P18,19) はOSリング併用で最大63.13%の貫通孔を設けた場合であり、耐力検討により最大63.13%の貫通孔を設けられない場合があります。